

新春に寄せて



あけましておめでとうございます。

皆様においてはつづがなく新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年には平成から新しい年号の年となります。自然派くらぶも創立45年目を迎え、取り巻く環境も生協も文字通り節目の年です。自然派くらぶ生協が新たなステージに向けた進化と飛躍を構築する大切な一年となります。

一昨年から行いました「地区総代会議」は第2回を開催いたしました。事前アンケートで最も多いご意見は「安心安全なものを今後も提供して欲しい」でした。そして会議では沢山の意見交換、情報交換ができ、今年の生協活動に生かしていきたいと考えております。

◆2018年度の外部環境

昨年は西日本豪雨や台風など、自然災害が多い年でした。特に果樹生産者にとっては甚大な被害となりました。今後の生産への影響が懸念されますので引き続き支援が必要だと思えます。また、政治では2018年4月に「主要農作物種子法」が廃止となりました。「種」=生命が多国籍企業のコントロール下におかれる不自然さを感じずにはられません。

◆壁を超える意識

私たちは今、変化の激しい時代を生きています。合理性、スピード性と経済性が主軸となり、変化への適応という進化を余儀なく求められています。しかし、生協の最優先は「社会性」です。組合員さんの豊かな暮らしのサポートや生産者さんの熱意ある取り組みを応援することです。それには組織の壁を越えた連携が必要だと強く感じています。他業種の生産者間や地域との連携など新たな価値を創造していきたいと思えます。

◆組織の成長

目標をもつことが成長につながることはいうまでもありません。自然派くらぶの今年度の目標は組合員の参画です。私達組合員の一人一人が、目標に向かっておりなす努力の総和が自然派くらぶの実力を向上させると信じています。どうぞ今年度も宜しくお願い致します。

最後に、今年の干支は「猪」です。猪は無病息災を意味する他「田の神・作物の神」などの意味合いもあるようです。今年は自然災害に見舞われず、実り多い年となることを祈念いたしまして、私からの新年のご挨拶とさせていただきます

自然派くらぶ生活協同組合
理事長 菊地あゆみ

